特集

迫り来る外来種の脅威

近年、私たちの身近な自然環境に昔から生息していたはずの生き物たちが姿を消しつつあります。

原因は本来その地域には生息せず、人の手によって他の地域から持ち込まれた外来種。その中には生態系や人の生命・身体、農林水産業などに影響を与えるものもあり、深刻な問題となっています。

今回は、外来種が及ぼす影響や対処の仕方などを紹介し、外来種問題について考えます。

問合せ　環境保全課（☎51・2385）

アメリカザリガニ

アライグマ

オオクチバス

私たちの身近に迫る脅威―。外来種が引き起こす問題

外来種とは、貿易や物資の輸送など人間の活動によって本来生息する地域から、もともとは生息していなかった地域に入り込んだ生き物のことをいいます。

外来種という言葉を見ると、「海外からやってきた」というイメージがあるかもしれませんが、日本国内のある地域から、もともと生息していなかった別の地域に持ち込まれたものも国内由来の外来種です。

外来種の中には、農作物や家畜、ペットのように私たちの生活に欠かせない生き物もたくさんいますが、地域の自然環境などに悪影響を与えるものも存在します。

これらは「侵略的外来種」と呼ばれ、在来種（もともと生息している種）を捕食して数を減らすなどの「生態系への影響」のほか、有毒な針で刺すなどの「人の生命・身体への影響」、さらには農作物を食べるなどの「農林水産業への影響」を及ぼします。

こうした外来種による影響に対応するため、国は平成17年に外来生物法を定め、侵略的外来種の中から「特定外来生物（※1）」を指定し、規制・防除することで被害の防止を目指しています。

しかし、近年は輸出入の拡大に伴う物流の増加などにより、外来種が持ち込まれるリスクが高まっており、実際、平成17年に42種だった特定外来生物は、平成29年（12月現在）には132種と増えています。特に、最近では昨年5月に国内で初めて発見されたヒアリ（※2）による人への被害が懸念されているほか、スクミリンゴガイ（通称 ジャンボタニシ）（※3）による農作物への被害が起きています。私たちの生活に深く関わっている外来種の増加は、国内で深刻な問題となっているのです。

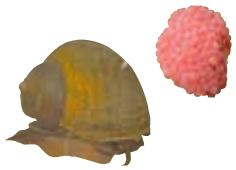
※1
特定外来生物

海外から国内に持ち込まれた侵略的外来種の中で、生態系などに大きな悪影響を及ぼす、または及ぼす恐れがあるものをいいます。生きているものだけでなく、卵や種子なども含まれます。

※2
ヒアリ

毒性が強く、刺されるとアレルギー反応で死に至ることがあります。

※3
スクミリンゴガイ



用水路や水際の草にピンク色の卵を産んで繁殖し、稲などを食い荒らします。

私たちの身近な在来種に危険が及んでいます

市内の昆虫の状況を見ると、特に外来種のタイワンタケクマバチやアルゼンチンアリが増えているのが分かります。このような状況に気付いたときには、すでに在来種の数が極端に少なくなっている可能性があります。人や農業への被害とは異なり、生態系への被害は目に見えにくく、気付いたときには深刻な状況になっているのが恐ろしいところです。

このまま外来種が増えれば、在来種は駆逐され、多様な生態系が失われていきます。私たちの地域に昔から生息している生き物たちが見られなくなる恐れがあるのです。

浅岡　孝知さん
（三河生物同好会）

市内でも、昆虫類、魚類、哺乳類、植物など多くの外来種が発見されています。
ここでは、市内で発見された外来種の一部を、特徴や識別ポイント、私たちに及ぼす影響などと合わせて紹介します。

特 特定外来生物

日 日本の侵略的外来種ワースト100
日本の侵略的外来種の中で、特に生態系や人間活動に大きな影響を及ぼすもの

世 世界の侵略的外来種ワースト100
世界の侵略的外来種の中で、特に生態系や人間活動に大きな影響を及ぼすもの

アルゼンチンアリ 特 日 世

種　類　昆虫類　**原産地**　南アメリカ
形　態　体長約2.5mm、淡黒褐色
影　響　生態系　★★★
人　★★☆
農林水産業　★☆☆

繁殖力・競争力が強いため、在来種のアリ類を全滅状態に追い込みます。毒性はなく、直接人に危害を加えることはありませんが、増え続けると屋内に侵入し不快感を与えるほか、わずかな隙間に巣を作り、配電設備の故障の原因になるなど、日常生活に影響を及ぼすことがあります。

識別ポイント
・細長い体型で、やや茶色の体色
・歩くのが非常に早い

オオクチバス 特 日 世

種　類　魚類(淡水魚)　**原産地**　北アメリカ
形　態　全長30～50cm
影　響　生態系　★★★
人　☆☆☆
農林水産業　☆☆☆

口に入るものは何でも食べるため、水草、昆虫、魚類、貝類など、さまざまな在来種を食べ尽くし、生態系に影響を及ぼします。

識別ポイント
・大きな口をもつ
・体に黒っぽい線模様が1本ある

オオキンケイギク 特 日

種　類　植物　**原産地**　北アメリカ
形　態　高さ30～70cm
影　響　生態系　★★★
人　☆☆☆
農林水産業　☆☆☆

繁殖力が強く、大きな群落を作ることがあり、在来種の植物を減らすなど生態系に影響を及ぼします。

識別ポイント
花の咲く時期は5～7月頃で、中心部まで黄色の花を咲かす

市内で発見された外来種

アライグマ 特 日

種　類　哺乳類
原産地　北アメリカ～中央アメリカ
形　態　頭胴長40～60cm、尾長20～40cm
影　響　生態系 ★★★
人 ★☆☆
農林水産業 ★★★

希少な生き物を食べることによる生態系への影響や、野菜類などを食べることによる農作物への被害、人へ感染症を媒介する危険性があります。

識別ポイント

・眼の周囲の黒いマスク模様がはっきりある
・尻尾に、しま模様がある

識別ポイント

メスの腹部はボールのように丸く、縦に赤い模様がある

セアカゴケグモ 特 日

種　類　節足動物　**原産地**　オーストラリア
形　態　体長0.5～1.5cm程度
影　響　生態系 ★★☆
人 ★★☆
農林水産業 ☆☆☆

メスは神経毒を持ち、かまれると激しい痛みと嘔吐（おうと）、腹部痙攣（けいれん）などの症状を伴うため、注意が必要です。

識別ポイント

頭の両脇に赤い模様がある

アカミミガメ 日 世

種　類　爬（は）虫類
原産地　北アメリカ～南アメリカ北西部
形　態　最大背甲長約20～30cm
影　響　生態系 ★★★
人 ★☆☆
農林水産業 ★☆☆

在来種のカメの生息場所や餌を奪い、数が減る原因となるほか、水生植物や魚類、両生類などを食べることにより生態系に影響を及ぼします。また、レンコンの新芽を食べるなど農業への被害もあります。

ヌートリア 特 日 世

種　類　哺乳類　**原産地**　南アメリカ
形　態　頭胴長50～70cm、尾長30～50cm
影　響　生態系 ★★☆
人 ☆☆☆
農林水産業 ★★★

水生植物を大量に食べるため、水鳥などと餌をめぐって競合し、生態系に影響を及ぼします。稲や根菜類も食べるため、農業への被害もあります。

識別ポイント

オレンジ色の門歯（前歯のようなもの）をもつ

STOP! 外来種

外来種Q&A

―外来種を増やさないために―

1

Q 外来種を見つけたらどうしたらいいの？

A 市では、外来種の生息状況を把握するため、目撃情報を集めています。外来種を見つけた場合は、外来生物目撃情報投稿フォームへ投稿するか、環境保全課へご連絡ください。

ホームページ内
外来生物目撃情報
投稿フォーム

2

Q 外来種を飼うことはできるの？

A 外来種を飼うことはできますが、最後まで責任を持って飼い続ける必要があります。これは外来種に限らず、すべての生き物を飼い始める場合に当てはまることです。

成長した時の大きさや寿命、生態などをよく調べ、自分で責任を持って飼っていくことができるかどうか考えてみてください。

なお、特定外来生物は、国の許可なく飼うことはできません。

3

Q 外来種を繁殖させてもいいの？

A 日本固有の在来種を守っていくため、外来種を繁殖させないでください。外来種に限らず生き物を繁殖させる場合は、その生き物の繁殖力や生態などを事前によく調べ、飼うことができるかどうか考えてみてください。

なお、特定外来生物は、国の許可なく繁殖させることはできません。

4

Q 外来種は人にあげてもいいの？

A 外来種を人にあげることはできますが、特定外来生物は国の許可なく人にあげたり、売ったり、また人からもらったりすることはできません。

5

Q 外来種を飼えなくなったら野外に放していいの？

A 外来種を野外に放すことは絶対にしないでください。その場所にもともと住んでいる生き物を食べて数を減らすなど生態系に大きな影響を及ぼす可能性があります。最後まで責任を持って飼い続けましょう。

なお、市では引き取りは行っていません。

6

Q 外来種を釣ったら持ち帰ってもいいの？

A 外来種を釣って持ち帰ることはできますが、その場所以外で放さないよう最後まで責任を持って管理してください。

なお、特定外来生物は、国の許可なく生きたまま運ぶことはできません。

7

Q 外来種を自分で駆除してもいいの？

A 鳥獣保護管理法で捕獲が規制されている哺乳類と鳥類を除いて、だれもが自由に駆除することができます。

ただし、外来種の中には毒をもち、かんだり、刺したりする、または病気を媒介するなど危険なものもいます。駆除を行うには、環境省や愛知県のホームページなどで事前に外来種について調べ、正しい知識を持ったうえで行いましょう。

被害拡大を防ぐため、三原則を守りましょう

最近、市内で急激に増えている「メリケントキンソウ」。実に画びょうのような棘（とげ）ができる雑草で、ケガをしたという報告もあります。このように私たちの身の回りに危険な外来種がいる中で、大切なのは身近な自然に目を向け見慣れないものに「気付く」ことです。外来種がいることに早く気付けば、深刻な状況になる前に対処することができます。

そして、外来種を増やさないために最も重要なのは、外来種をむやみに日本に「入れない」、飼っている外来種を「捨てない」、自然の中にいる外来種を他の地域に「広げない」ことです。この三原則を守り、外来種による被害を拡大しないようにしましょう。

瀧崎　吉伸さん
（愛知県外来種調査検討委員・高豊中学校教諭）

メリケントキンソウ